



大阪早稲田倶楽部



倶楽部 100 周年記念式典の開幕を祝った能「猩々」

2019. summer vol.174

大阪早稲田倶楽部創立100周年記念特集



次の百年へ。

- 01 **大阪早稲田倶楽部100周年**
記念式典を開催
- 04 100周年記念講演会
角 和夫さん講演録
辛坊治郎さん講演録
- 06 倶楽部100年史を刊行
100年史記事に反響
パパは早稲田 続報
- 08 華やかに100周年を祝う懇親会
- 13 高石勝男さんと早稲田・大阪
早稲田アリーナ募金 寄付
- 14 倶楽部100周年記念事業実行委員会
倶楽部100周年記念合唱団
- 15 大阪早稲田倶楽部定時総会
- 16 食べ歩き ぼたん鍋を堪能
- 17 写真部 舞洲を撮る
- 18 Wフォーラム 資産運用の極意とは
- 19 てくてくハイキング 好天のもと池田城へ
- 20 ゴルフ 早慶ゴルフ 慶応に惜敗
- 21 学問活用の杜 夢舞台そのものの企業・プライミクス(株)に学ぶ
- 22 稲雲会 俳句会一年の歩み
- 26 アラカルト 倶楽部祭
- 27 2019年度 役員・理事名簿
- 28 2018年度 活動実績／2019年度 活動計画
- 29 2018年度 収支決算書／表紙のことば／編集後記

大阪早稲田倶楽部

100 周年

osaka waseda club

記念式典を開催

元号が令和に改まった2019年、大阪早稲田倶楽部は創立100周年を迎えた。大正年間に産声を上げ、昭和、平成の時代を経て新時代におよぶ1世紀。多くの校友が集まり散じて交流し、親睦を深めてきた。100周年を飾る集大成として令和元年（2019年）5月25日、梅田の大阪新阪急ホテルで記念の式典と講演会、懇親会が華々しく開催され、300人を超える倶楽部の会員や来賓らが集い、創立100年を祝った。

出会う、つながる、
高め合う。
さあ、次の百年へ！

ムービー制作：広報・記録部会

豊島恵子・酒井敏行・伊丹香寿美・藤山広幸・岩谷良平・
加藤直樹・金子雅彦・北川博・柴田翔平・中里嘉弘・
中村裕美・栗本昌宏・藤田沙穂里・前田修

SONGS 作詞作曲：北川博 アレンジ歌：品川明子

式典の冒頭、倶楽部の懐かしい写真が紹介された



© 2019 K-PHO

100周年を祝って勢揃いした校友ら

1919-2019

記念式典は午後2時に始まった。冒頭、倶楽部のかつての総会風景やダンスパーティー、ハイキング、食べ歩きなどのイベントや集い、昔の倶楽部室のあったビルの写真などがスライドショーで映じられ、懐かしい情景や現在の活動の様子を通して倶楽部の歩みが紹介された。

続いて、100周年事業実行委員長の人見亨・倶楽部元会長（昭和47年院建築）が「100周年を迎え、非常に感慨深い。諸先輩方と若手のパワーがあって素晴らしい倶楽部が生まれ、きょうこうして多くのみなさんと祝えることが何よりの喜びです」と開式の辞を述べた。

さらに倶楽部会長の山澤俱和さん（昭和46年法）が「令和となった節目の年に100周年を迎えたことを喜ばしく思っています。これもひとえに早稲田愛に燃えた諸先輩方の労苦と校友の固い絆、大学本部および校友会本部のご支援、そして校友のみならず多くのみなさまのご高配、ご理解のたまものと感謝申し上げます。この先、倶楽部が隆盛、発展を遂げ、みなさまに素晴らしい倶楽部だとおほめいただけるよう倶楽部員一同精進したい」と挨拶した。

参加は、大学本部から須賀晃一・副総長と萬代晃・校友会代表幹事、さらに近隣府県の校友会支部長や幹事長、慶応、同志社、関西

早稲田アリーナへの寄付目録を受け取る須賀副総長



祝辞を述べる須賀副総長



開式挨拶の人見委員長



山澤会長は100年を迎えた感慨を語った

学院大同窓会役員ら来賓約50人と倶楽部員、校友ら約260人。倶楽部員では最長老の96歳の尾崎敏郎さん（昭和22年商）も元気に出席されたほか、この3月に卒業し、銀行や証券会社の大阪の支店に配属となったフレッシュな若手3人も顔を見せた。

大学本部では、旧記念会堂に替わって今年3月、早稲田アリーナがお目見え。その建設募金に倶楽部および倶楽部員が計500万円余りを寄せており、式典の中で山澤会長が須賀副総長に寄付金の目録を贈呈した。須賀副総長は倶楽部100周年の祝辞と寄付の謝辞を述べたあと「2015年より20億円を目標額にして開始した早稲田アリーナ募金は、昨年度末時点で21億6900万円を超えるご支援をいただきました。大阪の皆様には、多くの学生を早稲田大学に送り込んでいただくとともに、学生が世界に羽ばたいてくれるよう、ぜひとも応援をお願いします」と述べた。

また、萬代代表幹事は「令和という新しい時代の幕開けに



祝辞を述べる萬代表幹事

100周年記念事業を開催されるのは誠に意義深く、記憶に残ることと存じます。校友会も64万人の校友のみなさまとともに今後とも歩んでいきたいと思ひます」と挨拶した。

倶楽部の100年の歩みについては、小林一則副理事長（昭和55年政経）がプロジェクターで今昔の様々な写真を映しながら解説。大隈重信内閣の選挙応援を機に在阪の校友が結集し、倶楽部結成に発展したことや、関西財界の重鎮でにぎわいを見せた昭和30年代40年代の倶楽部の様子、のちに大阪市長となる中馬馨氏（昭和4年政経）の功績、大阪城公園の「早稲田の森」の成り立ち、倶楽部室の移り変わりなどをわかりやすく説明した。

倶楽部の会長・理事長を置くようになったのは昭和27年（1952年）からで、現在までで31人に上る。この日は、歴代の会長・理事長のうち田中宏氏（昭和33年国史）、山原一晃氏（昭和37年建築）、吉川一三氏（昭和45年商）、人見亨氏（昭和47年院建築）、野村公平氏（昭和47年法）、角和夫氏（昭和48年政経）が出席され、代表して田中宏氏に山澤会長が感謝状を贈呈し、功績をたたえた。



倶楽部の歩みを解説する小林副理事長



歴代会長・理事長を代表して田中宏氏(右)に感謝状が贈られた



司会を務める
青柳さん

1時間足らずの式典で、司会を務めたフリーアナウンサーの青柳万美さん（平成18年文）のてきぱきとしたさわやかな進行で盛会裏に幕を閉じた。

100周年記念講演会

角和夫さん、辛坊治郎さんの講演に熱気

記念式典に続いて、倶楽部の会長を平成20年より2期4年務めた角和夫さん（昭和48年政経）が「エンタテインメントとまちづくり」のテーマで、ニュースキャスターの辛坊治郎さん（昭和55年法）が「テレビの裏側お話しします。辛坊治郎のそこまで言って委員会?!」と題して、それぞれ講演した。

角さんは、阪急阪神ホールディングス会長で関西経済連合会副会長を務める関西を代表する財界人。大学では評議員会副会長も担っている。辛坊さんは、元読売テレビアナウンサーで人気のキャスター。若手から年輩層まで幅広いファンが多い。両氏とも「倶楽部のためなら」と講演料なしで快く引き受けていただいた。角さんは関西経済の今の潮流を熱っぽく語り、辛坊さんはテレビ・ラジオの番組でのエピソードや現在の世相などについてユーモアたっぷりに語り、満員の会場を大いにわかせた。



早稲田ブランドを世界へ

角和夫さん講演録

早稲田と慶応は良きライバルですが、今は早稲田と慶応の両方に合格すると慶応に進学する学生が多い状況です。なんとかライバルに追いつこうと頑張った結果、クアクアレリ・シモンズ社（QS）による卒業生の活躍を評価する指標では、東大に次いで早稲田が国内2位と評価されました。

自社について宣伝させていただくと、日本生産性本部の顧客満足度ランキングでは、エンタテインメント部門で宝塚歌劇団が、百貨店部門で阪急百貨店が、鉄道部門で阪急電鉄がそれぞれ1位を獲得しています。全国の調査ですので、首都圏にも有名な百貨店はたくさんあるのですが、実際に購入された方には阪急百貨店が評価されているのです。関西の住みたい街アンケートでは、3年連続で西宮北口が1位です。西宮球場の跡地を開発して、文化の香りがする街、子供を安心して育てられる街をコンセプトに、兵庫県立芸術文化センターや甲南大学、関西学院大学を誘致して取り組んだ結果ではないかと思います。早稲田大学にも、ブランドが上がるような情報発信をしていただきたいと思います。

関西では、関空と神戸空港という2つの24時間運用が可能な国際空港を活用することを目標に、道路や鉄道もますます整備されていきます。関西は明るい話題で盛り上がっているので、当社も早稲田とともに頑張っていきたいと思います。

記：伊丹香寿美（平成16年法）

早稲田大学では、昨年11月に行われた総長選から選挙のやり方が変わり、以前よりわかりやすくなりました。私は、鎌田薫前総長の時代に商議員の副会長をした関係もあって、総長選挙の時は島田陽一前副総長の推薦人でした。決選投票の結果、田中愛治総長に決まったので、私は総長室に電話をして商議員を辞めたいと申し出たのです。すると、逆に評議員の副会長もやってくれと言われました。まさに、選挙が終わればノーサイドというわけです。

2012年に定められた Waseda Vision150は、150周年を迎える2032年までの20年間で、世界のトップレベルの大学に追いつくための改革をやるとうとするチャレンジングなプランです。田中総長は、鎌田前総長の就任時から教務部門の理事として全体を統括されていたので、Vision は新旧二人の総長が協力して作ったものです。目標を達成するには皆で価値観を共有することが大事です。



テレビの番組しながら
聴衆を引きつける辛坊さん

報道の最前線で活躍してこられた辛坊さんのお話は活写に富み、司会を務める番組の語り口そのままの迫力ある話しぶりに、満席の会場は大いに沸いた。以下講演の内容。

1. 早稲田大学との関わりと近況について

早稲田と慶応両方受かったが、もちろん、当時偏差値の高かった早稲田の法学部に入学。大学では就職に有利と評判の高かった奥島ゼミに所属。全優で卒業のはずが、唯一「良」を貰った。後年奥島先生に恨み言を言ったのだが、もちろん先生はそんなことは全く覚えておられない。

現在63才。サラリーマン生活も一区切りということで、半ば冗談ながら、最近は一ユーチューバーを「本業」としている。ユーチューブに「辛坊の旅」をアップしたが、収益はほとんどない。500万円の投資に対して収益はたった1万2000円。ところが、たちまち違法コピーが現れたのには驚いた。他所での発言を貼りつけ、「旅」をそのままコピーしただけの代物にもかかわらず、本物とは比べ物にならないくらいたくさん「いいね！」を取っているのである。

2. ところで、最近の社会については、ある危機感を抱いている。放送界のみならず、社会全体のコンプライアンスが原理主義化してきていると思う。個人の物差しと社会の物差しとの間にズレが生じて来ている。10年前の物差しはもはや通用しない。そんなアブナイ社会になってきている。

これは東京のメディアに顕著である。恐らくは権力に近すぎるゆえに忖度が働くからか、うわべ建前のこ

人さまのおかげで 生かされている

辛坊治郎さん講演録

としか言わない。放送で使用する用語もうるさく制限されるのに、メディア自身何を正しいと考えているのかははなはだ不明である。（ここでその具体例が話しに上り、満場抱腹絶倒であったが、活字化ははばかられる。）東から入って来ることを、そのまま信じこむのは止めようではないか。

東京に比べると、コンプライアンスが厳しいなかでも大阪の情報番組は、価値がある。大阪は東京よりも視聴者のクレームが多い。そのせいもあってか、大阪の情報番組では、想像力を働かせながら、他人の経験を自己のものとして経験できるのである。

3. 最後に、みなさまもご承知の例の極限状況の経験（※注）を語りたい。この事件に遭遇するまで、私は、それまでの人生は自分の力だけで切り開いてきたと思っていた。しかし、日本から1,200[※]離れた太平洋上で真っ暗な中ヨットがまさに沈没する瞬間、ロープの結び目が手にかかって救命イカダに乗り移ることができ、ヨットの乗員2名は助かった。その結び目を作ってくれていたロープの制作者、世界で唯一1,200[※]洋上まで飛行できる海難救助艇を制作した神戸の中小企業、そしてエンジンが損傷しても命がけで救助してくれた海上保安官、いろいろな人々のおかげで助けられた。この経験から、人間は人さまのおかげで生かされているのだと信念が変わった。

4. 早稲田倶楽部百周年も、誰かの日常の一つ一つの確かな働きがあったればこそその結果だと思う。そうした背景に思いをいたしつつ、本日のこのめでたい記念行事にお呼びいただいたことを感謝申し上げます。

※注 辛坊さんは平成25年（2013年）6月、全盲の男性と2人でヨットでアメリカ西海岸のサンディエゴまで航行するため出帆したが、宮城県沖1,200[※]の海上でヨットが浸水し、遭難。救命ボートで10時間漂流ののち救助された

記：豊島恵子（昭和52年法）



倶楽部100年史を刊行

オールカラーの148ページ。倶楽部の歩みを草創期～大正年間～昭和初期～戦前・戦後～昭和30～40年代～平成・・・など時代を追ってたどった。倶楽部の各世代の会員による座談会や大阪出身の芥川賞作家で元早稲田大教授の三田誠広さんの特別寄稿、大阪で活躍の政財界人、学術・文化・スポーツ関係の方々の紹介、倶楽部の食べ歩きやゴルフ、講演会、行楽などの開催のあれこれ、倶楽部ゆかりの女流作家対談、会員の寄稿、昭和のころの懐かし的大阪の写真などを盛り込んだ。表紙は、早稲田大学芸術功労者で日本藝術院会員の画家藪野健さんによる大隈講堂の水彩画を提供いただいた。

倶楽部創立100周年を記念し、「大阪早稲田倶楽部100年史」を刊行した。倶楽部で年史を出すのは初めて。

編集部会で昨年秋より資料収集、取材、執筆を進め、100周年記念式典開催の5月25日に発行した。A4判、

1500部発行。5月25日の懇親会参加者に贈呈したほか、倶楽部員に届けた。大学、校友会、倶楽部運営でお世話になった関係者等に贈った。倶楽部の新入会員にも渡す。また、希望者には1冊2000円で提供している。

100年史記事に反響

100年史の記事や寄稿に反響があった。北垣博章さん（平成15年政経）の寄稿「パパは早稲田」には、校友会代表幹事の萬代晃さん（昭和44年商）が感涙。100年史編集部は、早稲田ひとすじの頼もしい校友がいることを萬代さんにお伝えしようと、100年史の刊行前に寄稿を見ていただいたが、寄稿の中のパパは、萬代さんの同窓だった。萬代さんは大阪府立天王寺高卒で学生時代は大阪早稲田学生会の幹事長も務められ、この大阪早稲田学生会に北垣さんのパパ（北垣信樹さん）がおられて夏のビアパーティーの企画・運営ほか一緒に活動されていた。

信樹さんが38歳で亡くなられたことや長男の博章さんが遺志を継がれたことなどを卒後50年にして初めて知り、5月25日の100周年記念式典の代表幹事で挨拶の中でもこのことに言及され、会場の方々に感銘を与えた。

懇親会で博章さんと会った萬代さんは「お父さん

の信樹さんとはほんとに仲良くやっていて懐かしい。このような形で息子さんとお会いできて素晴らしいご縁です」と感激されていた。

一方、博章さんは、お父さんを知る方をずっと探していたとのことで、この偶然の出会いに驚きと喜びが一緒になって胸を詰まらせていた。その思いのたけは、100年史編集部あてに届いた次ページの御礼状をお読みいただきたい。

100年史に掲載の寄稿「パパは早稲田」



パパは早稲田 続報

素敵な記念誌を制作いただきまして、深く感謝申し上げます。5月25日（土）の記念式典の翌日は仏壇に記念誌を供えて、父と100周年を祝させていただきました。また、近所に住む伯母（父の姉）に記念誌を見せたところ、当時を思い出して、泣き始めまして、伯母には辛い思い出が多かったようで刺激が強かったようです。

伯母は早稲田ではございませんが、俳句を嗜んでおりまして、稲雲俳句会の頁に掲載されている記事や写真に、恩師（翔鶴さん、梅田実三郎さん）が載っていたようで懐かしんでおりました。伯母もこのような記念誌に掲載いただいて本当に感謝しておりました。

（月曜日も夜に伺ったら、記念誌を読んでました。大変気に入ったようです）

姉にも見せようと思うのですが、姉も辛い思い出の方が多いので号泣すると思うので、いつ見せようかと悩んでいます。

幸い私は伯母や姉の辛い時期を知らず育ってきたので、祖母や伯父・伯母などから聞く話をもとに早稲田の父親像を想像してきたのですが、誰も早稲田に通っている父を見たことがなく、本当に父が早稲田に行っていたのか半ば不安でした。

また早稲田に行っていた頃の遺品といえば、1966年の早稲田学報と寄付金の振込用紙があるくらいでした。私が早稲田に入ってから、大学時代の父を知る人に会ってみたいと強く思うようになり、学生の頃は、探偵ナイトスクープにも投稿してみようか

とっていたのですが、そこまで踏ん切りがつかず、諦めていました。

（上記のくだりも寄稿文に書こうとしたのですが、ボリュームが多すぎて割愛しました。＜笑＞）

しかし、この寄稿文を介して、大学時代の父を知る方に初めて出会うことができました。しかもその方が校友会の代表幹事の萬代さんで、できすぎやろ、と思うくらいです。聞けば、当時の大阪早稲田倶楽部の方々にもお世話になったようです。

土曜日は総会の司会や懇親会の担当などで忙しかったのですが、事あるごとに涙して、涙を隠しながら、内心はそれどころではなかったです。

33回忌もすませ、父が亡くなって35年経ちますが仏壇に記念誌を供えて、父も喜んでいると思います。私にとってはほとんど記憶のない父ですが、このような機会をいただいたのと、素敵な出会いをいただいて父との思い出が増えて、本当にありがとうございました。感謝と涙しかありません。父とあわせて御礼です。



父の写真を手に萬代さん（左）との出合いを喜ぶ北垣さん（100周年懇親会で）

記：北垣信樹、北垣博章

華やかに100周年を祝う懇親会

記念式典、講演と続き、夕刻からは別の部屋に移って懇親会。出席は310人に上った。オープニングは、能「猩々（しょうじょう）」の公演。古来よりおめでたい席で演じられてきたもので、観世流能楽師で重要無形文化財総合指定保持者の山本章弘さんがシテを務めた。笛、鼓、太鼓、地謡に合わせて格調高く流麗に披露された舞台は満場の拍手喝采を浴びた。



開宴の祝いの能「猩々」は会場を魅了した



「倶楽部の今日があるのはみなさまのおかげ」と感謝する吉川校友会支部長

田中総長、慶応大の長谷山彰塾長の祝電披露に続いて、大阪慶應倶楽部相談役（前会長）の銭高一善・銭高組会長がステージに立ち、「慶応大が他の大学の地方組織の同窓会に塾長名で祝電を打つのは異例なことです。伝統ある大阪早稲田倶楽部に慶応も特別に配慮しました」とユーモア交えて挨拶。さらに「そもそも福沢諭吉と大隈重信が互いを認め合い、志を同じくしていたことが早慶戦に代表される両校の関係の原点です」強調し、「大阪早稲田倶楽部と大阪慶應倶楽部がより強い絆で結ばれていくことを祈念して」と杯を掲げた。

開宴あいさつは大阪早稲田倶楽部元会長で校友会大阪府支部長の吉川一三・住江織物社長（昭和45年商）。「先ほどの講演では角様と辛坊様に素晴らしく、そして楽しいお話を聞かせていただきました。そして今、開幕にふさわしい華麗な能を見せていただき、本当にありがとうございました。式典で山澤会長が申されたように、先輩、後輩がうまくバトンをつないで100年のこの日を迎えることができました。この先も150年、200年と祝うことができますよう私どもも心をついて歩みを進めたいと思います。きょうはこのほか趣向を凝らしたステージをご用意していますのでお食事ともどもごゆっくりお楽しみください」と述べた。



「早慶の絆は今も昔も強い」と語る慶応の銭高さん



懐かしい話でテーブルも盛り上がる

イベントの第一弾は、早大理工学術院先進理工学研究科の松方正彦教授がボーカルをつとめるジャズカルテットの演奏。「ラビアンローズ」などの名曲に会場は酔いしれた。司会進行は、在学中はアナウンス研究会にいた千切智世さん（昭和62年商）と朝日放送のアナウンス部長柴田博さん（平成4年教育）。世が世なら女子アナの千切さんと現役バリバリの人気アナウンサー柴田さんの絶妙の掛け合いに会場は大いに盛り上がった。

続いて、大阪市内で大人向けの手品教室「国際魔法大学」を開いているプロのマジシャンで、国際マジシャンズユニバーシティ代表理事の宮下トモさん（平成22年政経）のマジックショー。宮下さんは倶楽部の会員でもあり、角和夫さんや銭高一善さんらにステージに上がってもらってトランプを使った手品や靴下、食パン、レモンなどを使った手品を次々と披露。「えーっ、どうなってんの」「そんなの、ありえへん」などの声も上がり、驚きと笑いと喝采に包まれた。



司会の千切さん(右)と柴田さん



最長老の尾崎氏（右）



目を凝らしてもトリックがわからない宮下さん(右)のマジック



東京から来演の松方教授らのジャズカルテット

華やかに100周年を祝う懇親会



倶楽部混声合唱団がステージで脚光を浴びる

午後5時に開宴し、2時間半を過ぎても時を経つのを忘れ、料理もドリンクもまだまだ続いて熱気ムンムン。そこで会場が暗転。ピアノの調べに合わせ、中央の円卓から立ち上がった奥野陽子さん（平成18年人間科学）がスポットライトを浴びて中島みゆきの「糸」を歌い始めた。2節目は千切智世さんが継ぎ、続いて白原早織さん（平成11年人間科学）。歌姫3人がステージに向かうとステージには男女30人の倶楽部混声合唱団のメンバーがずらり。4節目からはフルコーラスで大合唱になった。



倶楽部員の稲田朋美衆院議員も顔を見せ、記念写真にポーズ



ワセジョの歌姫が突然歌い出す演出に会場もびっくり





校歌斉唱で早稲田愛を確かめ合った

このサプライズステージはそのまま「若き血に燃ゆる者～」と慶応の塾歌を披露し、同志社の「Doshisha College Song」、関西学院の「空の翼」、とメドレーで続き、早稲田の校歌に。会場が拍手の渦に包まれる中、応援歌「紺碧の空」、「ひかる青雲」、学生歌「早稲田の栄光」と歌い継がれ、場内の熱気も最高潮。「早稲田の栄光」はアンコールされ、参加者も全員立ち上がり、肩を組んでともに声を張り上げた。

倶楽部混声合唱団は、この日のために昨年末結成され、関西稲門グリークラブの指導を受け、練習を重ねてきた。ステージでは、グリークラブのメンバーも後列に並んで合唱をしっかりとサポート。曲の合間にはグリークラブ幹事の



肩を組んで「早稲田の栄光」をともに熱唱



華やかに100周年を祝う懇親会

今澤哲朗さん（昭和45年政経）、同じくメンバーの読売テレビ元アナウンス部長の道浦俊彦さん（昭和59年政経）、司会の朝日放送アナウンス部長柴田博さん（平成4年教育）らが合唱の魅力をユーモアたっぷりに掛け合いで語り、会場の笑いを誘った。会場の興奮さめやらぬ中、合唱団長の熊澤一郎・倶楽部理事長（昭和51年商）が感極まった閉会の挨拶で、参加者に謝辞を述べた。締めは恒例の校歌の大合唱。応援部OBの根岸孝さん（平成29年商）のリードで気炎を上げた。

3時間にわたる懇親の宴は様々な演出もあって成功裏に終わり、ホテル内のバーでの2次会でも楽しい語らいと笑顔いっぱいの歓談が続いた。

お土産は、人気のアンリ・シャルパンティエのハート型サブレ。校章とマスコットキャラクターWASEDA BEARがデザインされた特製版。アンリの社長は倶楽部員の蟻田剛毅さん（平成16年アジア太平洋研）だ。



熊澤理事長は宴の盛会に感謝した



人気のケーキ（左）とお土産のサブレ



高石勝男さんと 早稲田・大阪

100年史では、大阪ゆかりの早稲田人として高石勝男さん（昭和5年商）を紹介した。旧制茨木中卒で、アムステルダム五輪（昭和3年）の水泳男子800m自由形リレーの銀メダリスト。早稲田大戸山キャンパスにその名を冠した「高石記念プール」がある。芦屋水練学校の創設者で日本水泳連盟会長も務めた。

高石さんの甥にあたる会員の日下田宗弥さん（昭和32年商）は「叔父のことを取り上げていただいてありがとうございます」と感謝されている。日下田さんの義母の妹の夫が高石さん。日下田さんが結婚される半年前に義父が亡くなられ、結婚式では奥様の父親代わりを高石さんが務めてくれたという。

高石さんは実業家である一方、日本の水泳界の発展に尽力したが、昭和41年に60歳で亡くなられた。大阪・扇町プールで日本水泳連盟葬が盛大に執り行われ、水泳金メダリストの前畑秀子さんら3000人以上が参列された。多くの方に慕われた高石さんについて日下田さんは「叔父には大変お世話になり、とても恩義を感じています」と懐かしむ。

ちなみに日下田さんの義母は4姉妹で、長女（義母）の夫（日下田さんの義父）は早稲田のラグビー部。次女の夫が高石さん。三女の夫は東京帝大卒で馬術のオリンピック選手。四女の夫は早稲田卒でベルリン五輪（昭和11年）の棒高跳びのメダリストの西田修平さん。



日本水泳界の立役者だった
高石勝男さん

ん。日本勢が2位、3位となり、銀メダルと銅メダルを半分にして分け合った「友情のメダル」として名高い西田さんだ。それぞれのご主人は早稲田、オリンピックと錚々たるごきょうだいだ。

さらに、日下田さんは祖父が東京専門学校卒、父は国会議員の武さん（大正13年経済）と親子3代続きの早稲田。さらにさらに兄の実さん（昭和29年政経）はマナスル初登頂の登山家。弟の紀三さん（昭和38年商）はNHKを退社後、屋久島に移住され、世界遺産登録第1号に貢献された。「わが一族は男は早稲田と決まってきました」という日下田さんだが、子供さんの世代は上智、関西学院、筑波などで早稲田ゼロなんだとか。

早稲田アリーナ募金 寄付 (2019年5月末現在)

	金 額 (円)
大阪早稲田倶楽部	5,025,000
校友会大阪府支部	910,000

<寄付者>

(大阪早稲田倶楽部、校友会大阪府支部だけでなく個人、他団体経由の寄付者を含む)

蟻田 剛毅	尾下 千明	酒井 公明	田良尾 博			
池田 貴彦	尾田沙智乎	阪口 博教	徳井 隆一			
砂金 幸彦	景山 繁晴	滋野 雅之	豊島 恵子			
伊藤 伸	金本 基弘	島田 隆史	豊島 秀郎	廣末 雅昭	松岡 章郎	藪本 光彦
伊藤 晴夫	河田 一彦	嶋田 泰夫	中島 敏行	廣田 康人	松下 明義	山澤 俱和
稲田 朋美	河野 一博	角 和夫	中山 泰秀	藤井 康博	三木 基司	山原 一晃
衛藤征士郎	北側 元之	瀬川 隆行	西島 佳男	藤木 玄三	宮野 勝	横山 利治
江村 明	熊澤 一郎	高松 啓二	西田 隆郎	藤林 精二	森本 宏	吉川 一三
種田ゆみこ	鴻池 祥肇	竹田 雅幸	西納 功	古市 尚	森本 充威	和田 浩孝
大久保 滋	小西 康仁	田上 英樹	野村 公平	細川喜子雄	文字 和毅	藁谷 友紀
大塚征慈郎	小林 一則	田中啓一朗	八田 禪	前田 修	保田 洋三	
大西 平一	小林 哲也	田中 健吾	平田 裕	前田 浩司	柳本 卓治	



大阪早稲田倶楽部

100周年

倶楽部100周年記念事業実行委員会

実行委員長 人見 亨

部会	部会長	副部会長	スタッフ
式典・講演部会	田村昌之	豊島恵子	田良尾博、西田裕樹、伊藤 馨、井上敏彦、藤原 充、中司 宏、賛川芳郎、河野一博、三木基司、滋野雅之、嶋田泰夫、大塚紹子、北側元之、青柳万美
懇親会部会	尾田沙智乎	小西康仁	今澤哲郎、佐藤光宏、稲部勝博、大橋哲也、大久保滋、千切智世、石原美保、柴田 博、古田哲也、関 寛之、白原早織、秋元敬典、北垣博章、柴田秀和、松井瑛太郎、水上ただし
記念誌部会	小林一則	田中啓一朗	田中 宏、大塚征慈郎、山口 守、大谷祐子、徳井隆一、宮崎誠司、大西平一、音田裕一郎、福嶋千恵子、北野后子、中谷 睦、木崎麻里加、澤田沙都子
広報・記録部会	豊島恵子	酒井敏行	加藤直樹、前田 修、北川 博、伊丹香寿美、藤田沙穂里、梨本昌宏、中村裕美、稲山広幸
財務部会	森本 宏		島田隆史、梅原秀昭、文字和毅、下村和也
(寄付金・募金推進チーム委員長 竹田雅幸)			
総務部会	和田浩孝		荒武貞雄、横山利治、柴田翔平



倶楽部100周年記念合唱団



氏名	卒業年	学部	氏名	卒業年	学部
塩川 美枝	1956(昭31)年	教育	稲部 勝博	1985(昭60)年	商
古在 由昭	1957(昭32)年	政経	原田 裕子	1985(昭60)年	政経
杉谷 和代	1963(昭38)年	教育	千切 智世	1987(昭62)年	商
塚本 紀雄	1963(昭38)年	法	横山 利治	1988(昭63)年	理工
小林 稔明	1966(昭41)年	商	岩谷佳也子	1989(平01)年	政経
山澤 俱和	1971(昭46)年	法	大塚 紹子	1989(平01)年	文
白神美和子	1974(昭49)年	教育	樋富 直美	1989(平01)年	文
西田 裕樹	1974(昭49)年	法	鈴木 興治	1996(平08)年	政経
熊澤 一郎	1976(昭51)年	商	白原 早織	1999(平11)年	人科
小西 康仁	1977(昭52)年	商	奥野 陽子	2006(平18)年	人科
豊島 恵子	1977(昭52)年	法	柴田 翔平	2009(平21)年	商
服部 正光	1979(昭54)年	商	中里 嵩弘	2016(平28)年	スポ科
小林 一則	1980(昭55)年	政経	根岸 孝	2017(平29)年	商
荒武 貞雄	1981(昭56)年	法	高野 実		準会員
山元 唯光	1984(昭59)年	政経			



受付風景

大阪早稲田倶楽部定時総会



議長を務める山澤会長



来賓挨拶の須賀副総長

大阪早稲田倶楽部の令和元年度（2019年度）定時総会は5月25日、大阪新阪急ホテルで開催された。倶楽部の100周年記念式典や講演会の前に開かれ、186人が参加した。

はじめに山澤倶和会長（昭和46年法）が「これまでで最多の会員のみなさんにご出席いただいた。3つのことに感謝申し上げたい。

ひとつは、100周年の記念で早稲田アリーナ建設募金に多くの方々に寄付をいただいたこと。2つ目は、ご多忙の中、角和夫様、辛坊治郎様にご講演を快く引き受けいただいたこと。3つ目は、100周年の記念行事等の準備にスタッフのみなさまに多大のお世話になったことです。今後も倶楽部の活動が充実するよう良い環境づくりを進めてまいります」と挨拶した。

北垣博章・青年部会長（平成15政経）が司会を務め、議事では、平成30年度の活動および決算報告、なら



司会は北垣博章・青年部会長

びに令和元年度の活動予定、予算案がはかられ、賛成多数で可決された。人事案件では、山澤会長、熊澤一郎理事長（昭和51年商）、和田浩孝事務局長（平成元年教育）以下、執行部の改選はなく、2年の任期を終えた理事の改選で、34人の留任が可決された。残り任期1年の理事35人と合わせ、理事は69人になった。

来賓挨拶で須賀晃一・早稲田大学副総長は倶楽部100周年の祝辞と早稲田アリーナ建設募金への謝辞を述べた。大学の近況については、校友会の小林誠・副事務局長より「今春の志願者は11万1,338人で前年より5,871人、5%減。70%は首都圏からでした。入学者は学部生が8,802人、大学院生が3,017人で。大阪からは153人が入学されました」との説明があった。

ぼたん鍋を堪能

横関 哲也(平成31年人間科学)



平成の年の最後を締めくくる食べ歩き会は、3月30日(土)、丹波篠山の料理旅館「近又」のぼたん鍋としゃれこみました。参加は14人。お天気は、今にも雨が降り出しそうな生憎の曇り空でしたが、期待に胸を膨らませて出発しました。まず、JR大阪駅中央に10時に集合し、10時21分発の電車で篠山口へ。1時間ほどで到着し、そこからバスに揺られること15分、二階町バス停で下車しました。街道沿いの宿場町の様な風情を楽しみながら、「近又」に到着しました。

慶長14年(1609年)に創業し、400年を超える歴史がある「近又」は、ぼたん鍋発祥の旅館としても有名。昭和35年(1960年)には皇太子様がお泊りになり、54年には浩宮殿下がご宿泊され、ぼたん鍋をご賞味なされたとのことです。グルメの先達、揚野寛先輩(昭和43年政経)が今回で4度目だとおっしゃるだけあって、趣のある素晴らしい雰囲気漂わせていました。まず目を引いたのが、創業当時より残る木造の階段です。まるで、新撰組隊士が池田屋に討ち入った時の大階段の様な佇まいで大変驚きました。

その階段で2階に上がり、大広間の席に着くと、料理が準備されました。ぼたん鍋のコース料理で、先付け3品、近又特製ぼたん鍋、ぼたん丼、香の物、甘味と豪華な内容で、まるで牡丹の花の様に大皿に盛り付けられたシシ肉の美味しいこと。それでいて、ビタミンB2が豚肉の2倍以上、カロリーは牛肉や豚肉よりも低いというから驚きです。



お店の方からは、20分程度煮込むと甘味が増すと言われましたが、目の前で煮込まれていくシシ肉を見ていると、待ち切れずに食べ始めていました。しかし、やはり煮込むほど旨味が出てきて、より一層美味しくいただけました。このぼたん鍋も手伝ってか、先輩方のお酒の量もハイピッチで大いに盛り上がり、大変楽しくぼたん鍋を堪能することができました。

お店を出る前には1階のロビーに全員で集合し、恒例の記念写真を撮り、一同帰路につきました。帰りの車内では、田尾秀寛先輩(昭和44年商)から、所属されている俳句会のお話をうかがいました。車窓からの丹波篠山ののどかな景色を眺めつつ、私も一句といきたかったのですが難しいですね。

今回も大変楽しく、美味しく、食べ歩き会に参加させて頂きました。次回は、みなさまとご一緒できますように。参加を楽しみにお待ちしております。

舞洲を撮る

中村 裕美(平成22年人間科学)



遊園地のような外観のゴミ焼却場

実はこれまでに舞洲（此花区）には高校野球観戦で舞洲スタジアムにしか行ったことがなく、知っているようで知らない舞洲。関西に住んでいても行ったことのない場所ってたくさんありますよね。これはもう写真部イベントで行くしかありません！

4月13日のイベントではまずはゴミ焼却場に行ってきました。ただ、外観はどうみてもゴミ処理場には見えません。早速内部へ…。建物内に入るとタイルで彩られたホール。ゴミ焼却場なんて絶対に臭いと思っていましたが、そんなことを忘れるぐらいの造り。通路もぐねぐね。全く臭くも汚くもなく綺麗。そして会議室に通され、ここではスクリーンで10分程のビデオ解説。

ゴミ焼却場や下水処理場というのは付近の住人に嫌がられるといったマイナスイメージがあります。しかし人が生きていく上でとても大切な機関、仕事であるということから、そういったイメージを払拭し、市民にもっと親しみをもってもらうためエコロジストでもあったフンデルトヴァッサー氏に建物のデザインを依頼したのだそうです。そして、自然界には定規で引いたような直線や平らな地面は存在しないため、施設の建物の床や廊下、屋外の歩道は、自然の丘のようにうねりのある床に仕上げてあります。人は、このうねった床を歩くことによって自然との調和への思いをより深くすることができるのだそうです。大人になってから、改めてする工場見学も新しい発見があり楽しい時間でした。

続いて大阪舞洲ゆり園の跡地の大阪舞洲シーサイドパークで開催されていたネモフィラ祭りへ！「ネモ

フィラ」の花をご存知でしょうか？和名は瑠璃唐草、見頃は4月後半からゴールデンウィークにかけてのひと月に満たないぐらいの青くて小さなお花です。百万本のネモフィラが植えられているということですが、もはやどれぐらいの数か想像できません…！園内に一歩足を踏み入ると視界いっぱい広がるブルーオーシャン！空、海、ネモフィラの青が溶け合う風景はまさに絶景です！少し歩くと、ネモフィラ畑の中に顔を出したカラフルなチューリップがあり、また違った景色を楽しむことができました。そして公式キャラクターも誕生！その名も「ネモにゃん」。ゆるっとした表情がまた可愛らしかったです。

これからも、ぜひ多くの方々と一緒に、四季折々の美しい景色を楽しめたらと思います♪



一面のネモフィラ畑は圧巻

こんなワイドの写真も撮れます

資産運用の極意とは

投資の極意を熱っぽく語られた



「人生百年時代に備える資産運用の極意」と題したWフォーラムの講演が、2018年12月11日、大阪新阪急ホテルで開催されました。講師は荒武コンサル事務所代表の荒武貞雄さん（昭和56年法）。自らの収支の確認、差額を埋める自助努力、投資の極意。以下のように熱っぽく語られました。



①自らのセカンドライフ収入支出計画の確認

- ・収入について：冷静に確認しましょう。日本年金機構のホームページで概算額を知ることができます。企業年金のある方は人事部等に問い合わせましょう。
- ・支出について：厚労省のアンケートでは余裕のある生活は夫婦2人で月額35万円といわれています。また別の調査では26万円あれば生活できるともいわれています。

- ・収入と支出の差額こそが自助努力が求められています。

②収支差額がマイナスになる方が取りうる3つの選択肢

- ・生活費を切り詰める。
- ・定年後も健康を維持し働き続ける期間を長くする。
- ・金融資産に着目し資産運用を通じて「お金の寿命」を長くする。

この「お金の寿命を長くする」について。株価は企業の将来生み出す収益の現在価値と成長期待値の掛け算です。その株価を自分の資産の中に取り込むことこそが資産運用であり、お金の寿命を延ばすことです。

③セカンドライフの人生三大リスク

- ア) インフレリスク
- イ) 長生きリスク
- ウ) 突発的な不幸な出来事

ア) とイ) については事実を見つめ慎重な計画を作成することでコントロール可能なリスクです。ウ) については保険でカバーすることも有効です。自動車事故や火災などはこの典型です。ただし高額療養制度など仕組みをよく勉強して保険に入り過ぎないことも大事なポイントです。

④投資対象に詳しくなること

投資は、債券（国内、海外）、株式（国内、海外）、代替的投資（オルタナティブ）～リート、商品投資など～の5種類しかありません。ここに為替が絡んでくるだけです。リスクとは「将来何が起こるかわからない。しかし起こりうることを確率で表すことはできる」ということです。「時間分散、投資対象分散、長期投資」の原則再確認を。相場は短期的には必ず行き過ぎ（オーバーシュート）が起きます。タイミングの分散と長期投資が重要。投資対象も分散投資が鉄則です。

⑤大事なことは「自分の資産は自分で守る。命の次に大事なお金の話を大切に」

好天のもと池田城へ

山口 守(昭和51年文)

令和時代を迎えて最初のとくてくハイキングは5月11日(土)、池田城跡から日清食品のカップヌードルミュージアム(池田市)へ。宝塚稲門会との共催で29人が参加した。

ゴールデンウィーク10連休のほぼ最後の休日は好天に恵まれた。阪急池田駅前の商店街を通り抜けて、池田城跡へ。強い陽射しを避け、東屋や小川のせせらぎのそばの木陰の下で、それぞれ弁当昼食。城跡にあるやぐら風展望休憩舎に登り、緑滴る五月山や池田の町を眺望。五月台の展望所(標高190m)に向け

てハイキングを開始したが、真夏日並みの気温などで、熱中症が心配されたので、途中でコースをリタイヤして、もと来た道に戻る。

カップヌードルミュージアムは大変な混雑だったが、事前に予約していたので、時間通りに進行して、それぞれのテイストに合わせて、オリジナルのカップヌードル作りを楽しんだ。

帰りは阪急梅田駅まで戻り、地下街を少し歩いて、アサヒスーパードライ梅田で懇親会。夏シーズンを先取りした、おいしいビールで乾杯した。

カップヌードルミュージアムで
日清食品の創業者・安藤百福の
銅像を前に記念撮影



城跡の休憩舎からの眺めは最高

早慶ゴルフ 慶応に惜敗

第13回大阪早慶ゴルフ大会が5月11日（土）、西宮カントリー倶楽部で開催された。早稲田26人、慶応25人が参加。それぞれ上位10人の合計スコアで競い、慶応の勝利となった。対戦成績は早稲田の8勝5敗。

令和の新時代の初対戦で、早稲田は大阪早稲田倶楽部が創立100周年を迎え、2週間後には100周年記念式典を催すため、勝利で100周年を祝おうと意気込んで臨んだ。ゴルフ部OGの澤田沙都子さん（平成27年スポ科）、川口さららさん（平成31年政経）を従え、万全の布陣でスタートしたが、わずかに力及ばず、無念の涙を飲んだ。

個人戦では、早稲田は3位に二瓶清さん（昭和62年商）が入り、今春卒業して大阪の朝日放送に入社したばかりの川口さんが4位に入った。

大阪早稲田倶楽部の熊澤一郎理事長（昭和51年商）より優勝杯を贈られた大阪慶應倶楽部の渡辺岳夫会長（昭和57年経済）は「大阪早稲田倶楽部創立100年、誠におめでとうございます。早稲田さんには今回、プ

ロ級の方がおられ、私どもも負けてなるものかと心をかきたてるものがありました。早慶はライバルでありますが同志でもあります。今後も志を共有して良きお付き合いをお願いしたい」と述べた。

稲門上位 10 人 成績表（左端の数字は全体での順位）

順位	氏名	OUT	IN	グロス	ハンディ	ネット
3	二瓶 清	45	42	87	13.2	73.8
4	川口さらら	42	44	86	12.0	74.0
6	稲部 勝博	43	41	84	9.6	74.4
10	金本 基弘	43	51	94	19.2	74.8
15	浜田 善照	51	51	102	26.4	75.6
19	澤田沙都子	48	48	96	19.2	76.8
22	中村 雄一	53	46	99	21.6	77.4
23	野村 公平	55	55	110	32.4	77.6
24	藤井 俊男	47	50	97	19.2	77.8
25	竹田 雅幸	46	51	97	19.2	77.8



熊澤理事長（右）より優勝杯を贈られる慶応の渡辺会長

夢舞台そのものの企業・プライミクス(株)に学ぶ

荒武 貞雄(昭和56年法)



攪はんの技術は多くの
製品に生かされている



最新鋭の工場は
社員も働きやすい環境だ

倶楽部の勉強会「学問活用の杜」は5月31日、淡路島にある古市尚さん(昭和57年教育)が経営されるプライミクス(株)の本社工場を見学させていただきました。

同社は事業ドメイン(領域)を「攪拌(乳化、分散、微粒化、溶解、混練)」に特化されている点が特徴で、業界シェアは50%超とのことです。埼玉と大阪・福島にあった工場を淡路島・夢舞台に集約し、「理想工場(夢の実現)」に邁進された4代目古市社長の思いの詰まった工場&寮でした。

Prime と mix の造語と聞くと社名に込めた思いも伝わります。マヨネーズや塗料のようにきれいに混ぜると良いものはイメージがわきやすいですが、「微粒化(攪拌の過程で粒子を細かくすること)」を突き詰めることで「リチウムイオン電池の小型化や多容量化」に産学協同(山形大学等)で取り組んでいることにも驚かされました。

執務フロアは海に向かって見晴らしのいい全面ガラ

ス。席は固定でなく、毎朝、入り口でビンゴの球を引いて席決め。社員食堂は365日異なるメニューで、社歌はタケカワユキヒデ作、工場内のBGMには中森明菜の歌が流れ、役員はトイレ掃除もする、などなど社長の信念に基づき、社員の満足度を高めるあれこれに、住所通りの「夢舞台」として実行されていることに感銘を受けました。

徹底したマーケティング戦略と斬新なブランド戦略で従来型の企業イメージを一新。シュンペーターの「創造的破壊」を見事に実行された4代目古市社長とプライミクス(株)の今後の大活躍を確信せざる得ない一日でした。ありがとうございました。

参加は28人。大阪から貸切バスやマイカーで向い、見学のアとは洲本温泉ホテルニューアワジで宿泊。翌日は洲本ゴルフ倶楽部でのゴルフ組と鳴門の渦潮や大塚国際美術館の観光組に分かれて楽しみました。

俳句会一年の歩み (第586回～第588回)

四月句会 2018年4月15日

兼題：京都御苑吟行・囀目

御所の空ゆつたり流る春の雲
御所靨青空を占む京の春

こうじ

白き枝竹垣越しに雪柳
惜春とノートにしるす旅の空

青 城

閉ざされし御所の館に青葉臬
昼の膳京の地酒に花菜漬

いっこう

松の花けぶる千年御所の庭
建礼門厚き松皮や松の花

久 雄

よくみれば小さき花つけ若もみじ
拾翠亭出て満天星の花淡し

こうき

あの桜はと廻り道帰り道
夫には夫妻には妻の桜かな

けんじ

鳥の巢の見上げて高き御苑の木
犬連れて花時過ぎし御苑かな

だいち

弾痕の残りし御門春の風
囀りや雨降る御苑耳すまし

京 子

きらめきがあふれぬばかり若楓
水辺にて驚の巣作り眺めおり

敬 子

枝垂れし桜に少し残る色
水草に花びら残る拾翠亭

啓一朗



五月句会 2018年5月15日

兼題：子供の日、新茶、カーネーション

楽しげに遊ぶ声する子供の日
白磁碗緑麗し新茶かな

こうじ

まず一服新茶を勧むひなの寺
柿若葉小野小町の歌碑囲む

青 城

新茶汲む残り一滴濃し旨し
子供の日笑ひて涙泣き相撲

いっこう

君が笑み光なりけり聖五月
戦なき国なればこそ子供の日

久 雄

日和よし気分新たに新茶汲む
コーヒーと新茶楽しむ老二人

こうき

常よりは山盛り仏飯母の日は
夏に入る箱根は萌黄色さ中

けんじ

児の巣立ち飾ること無き武者かぶと
母逝きて白きを供ふカーネーション

秀 寛

石段に石楠花あふる奥の院
番傘と牡丹咲きをり当麻寺

だいち

矢車にほどよき風や子供の日
誰がためのカーネーションや終電車

治

朝摘みに精出す島のカーネーション
新茶淹れ静心なる朝かな

喜 代

カーネーション溢るる笑顔に目のうるみ
子供の日柱の傷も遠くなり

京 子

撫子がカーネーションの和名とは
新茶摘む乙女の指も輝きぬ

敬 子

子供の日帰る息子の布団干し
娘から妻に手渡すカーネーション

かずひろ

新茶売る緋の女子のスニーカー
赤衿に濃紺緋の新茶売り

啓一朗

六月句会 2018年6月19日

兼題：梅雨、さくらんぼ、夏蒲団

梅雨の空蛙鳴く声雨を呼び
ガラス皿紅映えて桜ん坊

こうじ

夏めきし木漏れ日の道朝散歩
さよならと手を振る窓に金魚鉢

青 城

籠り居て見あぐる雨や軒忍
山の宿あさげ夕げに茗荷汁

久 雄

皿一つ分け合ふ二人さくらんぼ
さざ波のよせ来るところ余り苗

こうき

梅雨晴れに阿咩の像はウエルカム
白鳳の三尊像や梅雨灯り

けんじ

網を掛け鶴より護るさくらんぼ
梅雨入りやどじょう啄ばむ朱鷺三羽

秀 寛

梅雨昏し往古の仏はほ笑めり
梅雨冷えにしいんと御座す仏かな

だいち

蹲踞に溢る、水や梅雨の庭
暗闇に足でまさぐる夏蒲団

治

六歳の記憶まざまざ梅雨に地震
三つ折りの傘忍ばせて梅雨外出

喜 代

茶柱に今日の幸福梅雨の朝
母縫いし一針こもる夏布団

京 子

ガラス窓いつもの一匹雨蛙
禅庭に説法のごとがまの声

敬 子

さくらんぼ老いてもうれしお弁当
かたつむり紫陽花の葉で雨やどり

かずひろ

活断層死後にはさせぬ梅雨の地震
梅雨の朝地震に浪速の脚もがれ

啓一朗

俳句会一年の歩み (第589回～第591回)

七月句会 2018年7月17日

兼題：日傘、夜店、ラムネ

小さきもの買うてうれしき夜店の灯
なつかしき絵日傘持てる四条橋
浩一郎

ラムネ瓶樽いつばいに冷されて
絵日傘や薄暗き路地明るくし
こうじ

電柱の片蔭で待つ交差点
滝見茶屋怒鳴りあふごと話しけり
青城

日傘閉ぢバス停木蔭長話
泣きじやくる迷子預かる夜店かな
いっこう

プシュと抜く泡に口寄すラムネかな
あてもなくのぞく夜店や古書まつり
久雄

ひやかしに夜店廻りぬ星の下
いか焼きのしきりに煙る夜店かな
こうき

あでやかに日傘さしたり尼法師
滝一条はるか向かうに音のなき
けんじ

イカ焼きの匂ひ人呼ぶ夜店かな
山水で冷やすラムネや遍路宿
秀寛

浜木綿やはるか黒潮ながれをり
ランドセル置いて駆け出す夜店かな
大地

早苗饗の済みて突然この豪雨
ラムネ抜く音のはるかに父母在す
喜代

夜店には裸電球よく似合ひ
すれ違ふ寺の参道白日傘
京子

ひんやりとラムネ飲む井戸懐かしく
雲眺め昼寝の床は砂日傘
敬子

海水浴あきらめ散歩日傘さし
カラフルな日傘と出会ふ琵琶湖畔
かずひろ

百段をゆるりと降りる日傘かな
きょうならと言ひて日傘を開きけり
治

ラムネ屋の店番の子は仏頂面
ラムネ売り冷やこいでえと低い声
啓一朗

八月句会 2018年8月21日

兼題：西瓜、花火、走馬灯

いつまでも見れば哀しき走馬灯
思ふことみな闇に散る花火かな
浩一郎

軒先の走馬灯見て子の集ふ
火の玉のぼとり線香花火かな
こうじ

庭草の香に包まれて夕端居
旅先の慣れぬ枕や遠花火
青城

西瓜切る母の手元に子の瞳
消燈の病棟静か遠花火
いっこう

此頃は西瓜も小玉核家族
三代の揃ふ家族や庭花火
久雄

走馬灯回るに合へる読経かな
這ひまはるねずみ花火は生きてをり
こうき

親のよに偕老願ひ墓洗ふ
流灯や祖父父母の並びゆく
けんじ

歓声の闇で仕掛ける花火師や
遠花火ドンドンドンと音ばかり
秀寛

花木僅白く咲きみし茶室かな
秋めくや熊野古道の風白し
大地

来し方の楽しきことや走馬灯
大家族揃ふを待てり大西瓜
喜代

瓜冷しふるさと思ひ手紙書く
人波みを避けて見上し遠花火
かずひろ

西瓜喰ふ居間に赤子の寝息かな
西瓜さげ犬のそそをわびに行く
啓一朗

九月句会 2018年9月18日

兼題：太刀魚、コスモス、松虫

太刀魚を焼き遠来の友と酌む
舞ふごとくコスモス風に立てるかな
浩一郎

照焼きの太刀魚の味酒進む
秋桜波寄せるごとく風に揺れ
こうじ

夕風や浜に流木拾ふ影
花蕎麦の香を運びくる里の風
青城

濡れ縁に留守居と知るやちんちろりん
コスモスや廃校庭に夢残し
いっこう

松虫や古き離宮の笹垣に
夕明り松虫夜を待ちかねて
久雄

揚げられて長き太刀魚須磨の浜
疲れ身に松虫の音や萩果つる
こうき

祇王寺や松虫の声しめやかに
野分来てなみ震る列島神の意や
けんじ

会話絶え静けき夜の松虫や
太刀魚のキラリキラリと釣上る
秀寛

通夜終へてひろごる闇の虫しぐれ
なだらかな花野の果てに海光る
大地

コスモスや単線鉄道ある暮し
誰彼にコスモス切りぬ母在りし
喜代

コスモスの花も聞いてる鐘の音
虫時雨ふと口ずさむ唱歌かな
京子

しやしきやきとありの実喰らふ雨の午後
参道や夕日真横に彼岸花
敬子

太公望魚籠に三匹太刀の魚
コスモスの花があふれて元興寺
かずひろ

池と化す庭は台風一過なり
塩焼きの太刀魚香りでまづ一献
啓一朗

俳句会一年の歩み (第592回～第594回)

十月句会 2018年10月16日

兼題：松茸、新酒、金柑

法楽や焼松茸に爛の酒
廃屋の庭に金柑鈴成りに

こうじ

庭先で松茸の香をせめてもと
豹柄の案山子立てたる棚田かな

青 城

金柑を盛りにて百円無人駅
かんてきに裂きし松茸焼きはじむ

いっこう

ひととせのめぐる早さや初紅葉
下戸なれど新酒とあらばなめてみる

久 雄

下戸ですと言へど新酒をすすめらる
野には野の山には山の秋の声

こうき

石舞台刈田を走る夕日影
五人とも白髪頭や新酒酌む

けんじ

炊き込むか焼くかで迷ふ松茸や
本尊に新酒一本経一卷

秀 寛

朝寒し笑み絶やすなく弥勒仏
菊一輪先逝く友の棺におく

大 地

掌透かせて秋の日射しかな
新酒酌むひとのよき顔好きな顔

喜 代

杉玉を見かけてくぐる新酒かな
松茸の迷いに迷いかごの中

京 子

木に実る小さき金柑山の日々
禅林に漂ふ香り檜櫓なる

敬 子

升の香もほんのり味わう新酒かな
土瓶蒸インスタントで愉しむ香

かずひろ

松茸の太い奴出すなじみ店
潮の香の温泉入り新酒酌む

啓 一 朗

十一月句会 2018年11月18日

兼題：箕面大滝吟行・囃目

風や野口英世の像包む
冬の空猿が迎へる箕面道

こうじ

山紅葉箕面の里の空青し
溪合ひの陽を透かし見る色紅葉

青 城

猿の住む箕面大滝大紅葉
売り切れのもみじ天ぶら滝の茶屋

いっこう

石走る水白々と溪紅葉
冬紅葉散る道ゆけば猿の声

久 雄

落水の苔を育み神の留守
見下ろして見上げて楽し冬紅葉

こうき

大滝のどよみ冬天に吸ひ込まる
冬天に雲奔りたり滝の上

けんじ

落紅葉踏んで駆け行くサイクルや
紅葉狩り迷惑顔の箕面猿

秀 寛

滝道の落ち葉脇道積み重ね
日だまりの汀に小さき帰り花

大 地

箕面なる滝は紅葉を和ひて
滝しぶき冬虹淡く生ましむる

喜 代

滝見上げ懐手にて句をひねる
土砂崩れ痛々し跡紅葉山

啓 一 朗



十二月句会 2018年12月18日

兼題：年末一切

カレンダー一枚残り年暮れる
工事する音も忙しげ年の暮

こうじ

大枯木越しに明星輝きぬ
落葉掃く気配のありし書院窓

青 城

ノーサイド抱き合ふラガーの息白し
冬の田や日三便のバスを待つ

いっこう

信楽や農家何処も千大根
笑み交す登校の子等息白し

久 雄

冬どれの庭の白菊咲き灯す
諸事あれど日課つづけて日記果つ

こうき

雪吊の職人梢の先に立つ
風し日々師走の日々はさざ波が

けんじ

除夜の鐘柴燈護摩の火の合図
平成の終弘法人の波

秀 寛

ひととせを浸りて思ふ柚子湯かな
冬の月八坂の塔の空高く

大 地

旅立ちを急ぐひとあり年の暮
陰性の検査結果や枇杷の花

喜 代

こころざし新聞少年息白し
落葉踏み蹴にのこるかろき音

京 子

早朝の散歩の犬も息白し
鏡見て寂しさつのる木の葉髪

かずひろ

コート置く能楽堂の椅子新た
年賀状書き終へる頃字が揃ふ

啓 一 朗

俳句会一年の歩み (第595回～第597回)

一月句会 2019年1月15日

兼題：年新た、嫁が君、お年玉

年新た心づもりも五つ六つ
恙なき年であれかし初句会
商 平

お年玉握り駆け出す孫笑顔
年明けし空に一筋飛行雲
こうじ

初富士に車内放送声はずむ
初風の入江三筋の日矢させり
青 城

初硯奈良の古墨に伊勢の水
国宝の天井駆ける嫁が君
いっこう

歳順に序列のありしお年玉
嫁が君先づは目出たき千支頭
久 雄

初旅や生きる行方を見直しぬ
天地寿ぐ千両と万両の赤
こうき

初日の出蛇口捻ればうまき水
煮凝りの透きとほりたり柿右衛門
けんじ

毘沙門のお供へ狙ふ嫁が君
初弘法「まずお参り」と僧の声
秀 寛

縮こまりバス待つ人や寒の入り
きはやかに大和三山初御空
だいち

子は友と我は家内と初詣
初日の出今年はしかと見とどけり
一 博

木偶回し来て父母も居て遙かなり
ふふふと只ふふふと初寝覚
喜 代

二月句会 2019年2月19日

兼題：うすらひ、風花

ものの芽を育てやさしき雨の降る
風花の消えて須磨浦黄昏て
商 平

朝日差し溝の薄氷溶かしけり
風花を追ひて幼児の笑顔かな
こうじ

愛宕山女坂男坂に梅匂ふ
薄氷や赤き実のせて漂ひぬ
青 城

湯の街のうすらひを踏む下駄音
薄氷を割る手水鉢高野山
いっこう

夜半の雨明くれば雪に変はりけり
たずねゆく道はるかなり風花す
久 雄

風花や迷ひまよひて池の端
薄氷や朝の光の中にあり
こうき

御幣祓ふ風花の舞ふ地鎮祭
陀羅尼助アリと看板寒明くる
けんじ

針供養繕ひ下手の母想ふ
風花や三筋に落つる那智の滝
秀 寛

日差しうけ汀離るる薄氷
人まばら輪島朝市余寒なほ
だいち

薄氷を踏みて駅まで小走りに
風花を肴に友と旨し酒
一 博

窓越しの風花飽かず眺む日よ
日当れば動く薄氷ありにけり
喜 代

風花にしばしのいやし貰ふかな
薄氷を踏みてはしやぎし子の笑顔
京 子

うすらひの光を放つ禪の庭
寒明けの空は明かるく帰途につく
敬 子

三月句会 2019年3月19日

兼題：卒業、春の服、蒲公英

卒業や出世拂ひも二つ三つ
春服に似合ふスカーフ贈らばや
商 平

真昼間の物干竿に春の服
たんぽぽや陽射しに映えて閑かなり
こうじ

菜の花の開けるにまかす杉部落
芽吹きせる庭木に光る今朝の雨
青 城

陣屋あと石碑を囲み辛夷咲く
朝湯あと湖畔の宿のしじみ汁

幼き日愛でし蒲公英老いてなほ
背丈のみおとなになりて卒業す
久 雄

持ちきたる珈琲たんぽぽのある所
日歸りの旅ならかるく春の服
こうき

卒業時植ゑし庭の木六十歳
涅槃会や常は人なき村の寺
けんじ

虫除けの香りほのかに春の服
華嚴寺や巡礼迎ふひな飾り
秀 寛

日溜りの名もなき塚に黄水仙
春めきて笑みこぼるるや弥勒佛
だいち

戦場の今はタンポポ黄で埋まる
大空へボールを蹴って卒業す
一 博

まっすぐな眼をして少女卒業す
春の服着て印象派美術展
喜 代

蒲公英の路傍明るく黄色かな
参道に初音聞えし寺歸り
京 子

倶楽部祭

恒例の倶楽部祭が4月6日（土）、森之宮のKKRホテル大阪で開かれた。校友会大阪府支部との共催で桜の季節のこのころに開催している伝統行事。倶楽部の新入会員の歓迎会も兼ねており、この日は新たな仲間16人を迎えての会となった。全体では約50人が参加した。

ホテルは大阪城の南側にあり、ホテルの窓越しに絶景の天守閣が見える。今年は桜の開花が遅めで、満開から散り始めの桜を眺めることができた。会場では、老いも若きも和気藹々といつものように楽しい雰囲気。新入会員は先輩や取引先などの紹介でいった人やホームページを見て門をたたいた人など様々。壇上で自己紹介をして倶楽部の輪に入った。

ステージでは、手品のアトラクションや平成から令

和に代わるのを記念した寸劇などが披露され、拍手を浴びた。寸劇では、平成の青年部会長の秋元敬典さん（平成12年商）から令和の青年部会長・北垣博章さん（平成15年政経）にバトンタッチする“儀式”もあり、会場を沸かせた。

宴のあとは大阪城公園にある「大阪早稲田の森」へ。天守閣をぐるっとめぐってそぞろ歩きしながら森へ。森というほど木々が繁っているわけではないが、碑やプレートがあり、みんなで記念写真におさまった。



新しい会員は壇上で自己紹介して仲間入り



桜はまだ見ごろだった。「早稲田の森」を訪ねるのも恒例



時代が新しくなって
青年部のリーダーも代替わり

2019年度役員・理事名簿

会 長 山澤 倶和 (昭46年法)
 理 事 長 熊澤 一郎 (昭51年商)
 副理事長 尾田沙智乎 (昭52年商)
 副理事長 小西 康仁 (昭52年商)
 副理事長 豊島 恵子 (昭52年法)
 副理事長 田村 昌之 (昭54年法)

副理事長 小林 一則 (昭55年政経)
 副理事長 森本 宏 (昭60年法)
 監 事 岩崎 勇作 (昭47年商)
 監 事 種田ゆみこ (平1年商)
 事務局長 和田 浩孝 (平1年教育)
 会 計 酒井 敏行 (平11年人科)

新任理事 (任期2年) 34名

大塚征慈郎 (昭38政経)
 津野 英男 (昭40政経)
 森本 充威 (昭40商)
 河田 一彦 (昭42商)
 揚野 寛 (昭43政経)
 小林 哲也 (昭43政経)
 廣末 雅昭 (昭43理工)
 田尾 秀寛 (昭44商)
 向井 利明 (昭44政経)
 今澤 哲朗 (昭45政経)
 山澤 倶和 (昭46法)
 西田 隆郎 (昭47商)
 角 和夫 (昭48政経)
 保田 洋三 (昭48法)
 伊藤 馨 (昭51政経)
 井上 敏彦 (昭51文)
 熊澤 一郎 (昭51商)
 藤原 充 (昭51商)
 小西 康仁 (昭52商)
 佐藤 光宏 (昭53理工)
 小林 一則 (昭55政経)
 田中啓一朗 (昭55社学)
 稲部 勝博 (昭60商)
 大橋 哲也 (昭60政経)
 森本 宏 (昭60法)
 千切 智世 (昭62商)
 和田 浩孝 (平1教育)
 大西 平一 (平4政経)
 古田 哲也 (平4政経)
 梅原 秀昭 (平5法)
 前田 修 (平6政経)
 酒井 敏行 (平11人科)
 伊丹香寿美 (平16法)
 藤田沙穂里 (平16法)

現任理事 (任期1年) 35名

山田 純子 (昭38理工)
 吉川 一三 (昭45商)
 藤井 俊男 (昭45法)
 藪本 光彦 (昭46法)
 稲田 増光 (昭47政経)
 小泉じゅん子 (昭47文)
 竹田 雅幸 (昭47商)
 野村 公平 (昭47法)
 木下 斉 (昭48商)
 奥野 富雄 (昭49社学)
 山口 守 (昭51文)
 尾田沙智乎 (昭52商)
 豊島 恵子 (昭52法)
 島田 隆史 (昭54政経)
 中司 宏 (昭54文)
 田村 昌之 (昭55法)
 費川 芳郎 (昭57教育)
 河野 一博 (昭59社学)
 中村 雄一 (昭59理工)
 大久保 滋 (昭60政経)
 三木 基司 (昭61教育)
 滋野 雅之 (昭63理工)
 嶋田 泰夫 (昭63政経)
 大塚 紹子 (平1文)
 石原 美保 (平4法)
 関 寛之 (平8理工)
 白原 早織 (平11人科)
 秋元 敬典 (平12商)
 北側 元之 (平14教育)
 岩谷 良平 (平15法)
 北垣 博章 (平15政経)
 柴田 英和 (平17政経)
 北野 后子 (平18法)
 松井璞太郎 (平22法)
 中谷 睦 (平23教育)

倶楽部活動実績・計画 ◆◆◆

2018年度活動実績

1. 倶楽部財政黒字化の定着化

事務合理化の積極的推進 発送文書費の削減

2. 早稲田倶楽部祭の開催

2018年4月7日(土)、於:KKRホテル大阪。理事会および新人歓迎会と同時開催
倶楽部祭終了後に大阪城公園内の早稲田の森を見学。参加66名

3. インターネットの活用

ホームページからの入会者の対応 18年度入会者61名のうちHP入会16名
ホームページの更新
メールマガジンによる各種行事案内等の連絡・応募・出欠確認
フェイスブックのグループページの活用
行事案内その他一斉メール 116回/年

4. 校友会支部活動との連携

校友会支部と共催の狂言鑑賞会への参加 2019年1月13日(日)参加24名
校友会支部と共催の新年会への参加 1月19日(土)参加139名 ソプラノ歌手公演

5. 部会活動

- ① 学問活用の杜(勉強会)(9月17日 参加49名)
- ② 関西演劇文化研究会 文楽、狂言、新歌舞伎座、ピッコロ劇団、宝塚歌劇、梅田芸術劇場、よしもと落語無料鑑賞会など年間40回開催
- ③ 青年部 ゴルフ、夏の宴、クリスマス会
- ④ Wフォーラム 年5回
- ⑤ 史談会 年6回 「19世紀のバリのサロン・コンサート」「教科書の古典を読む」
- ⑥ ゴルフ 5月、7月、9月(校友会)、11月(全国校友会)、12月、3月
- ⑦ 食べ歩き会、ハイキング、写真、早稲女、俳句会、カラオケ、経済、囲碁
- ⑧ アメリカンフットボール(甲子園ボウル)関西学院大戦応援 12月18日 参加170名



新年会にはソプラノ歌手を招いた(1月19日)

2019年度活動計画

1. 大阪早稲田倶楽部100周年記念行事の開催と関連行事の実施

2. 倶楽部財政健全化の維持

さらなる事務処理効率化と諸経費の削減推進

3. 会員の増強による会費収入のアップ

現行会員625名(2019年3月末) 目標会員670人

4. 校友会支部行事との連携強化

共催行事である新年会、倶楽部祭への積極的な参加者募集、オープンキャンパスへの参加(毎年7月開催)

5. 広報活動の充実

倶楽部ニュース、年誌の発行、ホームページの運用強化

6. 会員名簿(2年ごと)と新入会員名簿の作成

7. ホームページの拡充および充実

8. サイレント会員の掘り起こし

新システムに各行事の参加者を入力してサイレント会員の実態把握、連絡強化

9. 新人歓迎会の年2回開催

4月と10月 定着化

10. 部会の本格的活動

Wフォーラム、学問活用の杜、関西演劇文化研究会、ハイキング部会、大阪早稲女会

11. 青年部活動の活性化

在阪企業の早稲田OBとの交流会の企画立案。活動中の若手中心の勉強会を核とした異業種交流会の実施。暑気払い、クリスマス会の実施。ゴルフコンペの開催



早慶ゴルフには熱が入った(5月11日)

収支決算書

(2018年4月1日～2019年3月31日)

収入の部		
会 費		8,195,850
寄付金		60,000
出版協力金		340,000
事業収入		1,539,000
雑収入		380,128
当期収入合計		10,514,978
支出の部		
事業費	事業費	2,148,613
	印刷費	692,712
	会員名簿	587,000
	小 計	3,428,325
経費	給料・諸手当	3,335,719
	家賃・共益費	1,474,581
	通信費	402,320
	消耗品費	1,033,474
	振替手数料	86,698
	慶弔接待費	82,517
	雑 費	337,652
	小 計	6,752,961
当期支出合計		10,181,286
当期収支差額		333,692
前期繰越額		14,701,199
次期繰越額		15,034,891

(単位・円)

<表紙のことば>

倶楽部100周年記念の懇親会のオープニングを飾った能公演。シテ(主役)の観世流能楽師の山本章弘さんは、大阪のビジネス街にある山本能楽堂の代表理事を務めている。創立90年の大阪では最も伝統ある能楽堂で、能楽の普及にも尽くされている。生で見る能は初めてという人もいて、その厳粛さに固唾を呑んでいた。

編集後記

記：小林一則

倶楽部の創立100周年。5月25日の大阪新阪急ホテルでの記念式典、講演、懇親会は盛況でした。その熱い息吹きをお伝えしたくて、特集にしました。みなさん表情もにこやかで、写真うつりもばっちりです。楽しくにぎやかな雰囲気が出ていると思います。

講演いただいた角和夫さん、辛坊治郎さんともその分野のトップランナーです。稲門であることを誇りに思います。ご多忙の折、この日をセットいただき、感謝申し上げます。このお2人の講演があることもあって、参加申し込みが殺到し、予定の300人を超えることとなり、お断りした方には申し訳ない気持ちでいっぱいです。

懇親会のアトラクションも盛りだくさんでした。荘厳な能に始まり、ジャズの演奏、楽しいマジック、サプライズの合唱に会場は大いに沸きました。準備のスタッフのご苦労も大変だったと思いますが、みなさんに時の経つのも忘れて堪能いただいたことが何よりだったでしょう。ご年配の倶楽部員で久しぶりにお顔を見せられた方もおられました。懐かしい再会に話がはずんでいました。

式典に合わせて倶楽部100年史を刊行しました。倶楽部の歩みがよくわかった、先輩方はよく頑張ってください、稲門の仲間によかった、とお褒めの言葉を多数いただきました。ありがとうございます。幼いころに死別の父への思いを綴った北垣博章さんは、父を知る校友会代表幹事と懇親会で出会いました。お父さまも喜んでおられることでしょう。水泳の五輪メダリストの高石勝男さんは倶楽部員の日下田宗弥さんの叔父さんとわかりました。山澤俱和会長が言われていた縁(えにし)がそこそこにありました。

大阪早稲田倶楽部



年誌 vol.174 発行：2019年8月

〒530-8310 大阪市北区芝田1-1-35 大阪新阪急ホテル 3階

TEL：06(6377)2002

FAX：06(6377)2003

URL：http://www.osakawaseda.jp

mail：125@osakawaseda.jp

倶楽部室開館時間：月～金(祝日、年末年始を除く)

11:00～18:00

編集／大阪早稲田倶楽部 広報委員会

印刷／大阪読売サービス株式会社

